

## 大聖院：仁王門

仁王門、つまり守護王の門は、大聖院への入口の印となり、世俗的な世界から寺院の神聖な境内を分けています。出入口を見守る厳しい様相の2人の守護王は悪を払い、寺院を災いから守ると信じられています。左側の守護王は口を開けて表現で、「あ」(サンスクリット語の音節文字系の最初の音)の文字を発音しており、一方「うん」(サンスクリット語の最後の音)の音節を発するように見えるそのパートナーはほぼ口を閉じています。この文字の組み合わせは仏教ですべてのものの集成を表すもので、キリスト教でギリシャ文字アルファとオメガが使用されるのに等しいものです。大聖院の元の仁王門は、1887年に寺院のほとんどの建物が焼失した火災にて失われました。現在のものは1939年に総ケヤキ材で建てられたものです。